SDGｓ貢献賞

再生重油を加温燃料に使った農業施設の建設

GNホールディングス

GNホールディングス（天野慎太郎社長、群馬県前橋市）は、2022年末に新規農業法人「株式会社ｍｉｎｏ－ｌｉｏ（ミノリオ）」を設立し、農業界では従来ほとんど使用されてこなかった再生重油を加温燃料として利用する農業施設の建設に着手した。

日産・ルノーを取り扱う群馬日産と日産プリンス群馬、UDトラックスを取り扱うGNロジパートナーズ、アウディ正規ディーラーを運営するアウディ営業部を傘下に擁するGNホールディングスは、自動車やトラックの定期点検などで年間約44万㌔のエンジンオイルを交換・排出している。この廃オイルは、不純物を濾過すれば再生重油として農業用ビニールハウス加温用燃料にリサイクル可能となる。

近年、農業用ビニールハウスの加温燃料として用いられているA重油はウクライナ問題などで価格が高騰し、農家の経営を圧迫している。一方で再生重油は安価なため、この積極活用が重油高騰対策として有効な選択肢となる。

また、再生重油は省エネ法で非化石燃料に分類され、燃焼しても二酸化炭素（CO_2）の排出は実質ゼロカウントとなるため、脱炭素農法の強力なツールとなる。

ミノリオでは、園芸用ビニールハウスと再生重油を加温燃料とした加温設備を導入し、高崎市中尾町にいちご農園を建設した。高崎市とは、再生重油利用のための研究と普及に関する個別連携協定を締結しており、将来的には再生重油そのものとその利用スキームを群馬県内の農家・農業法人に提供することで、循環型経済と地球温暖化対策への貢献を目指していく。

廃オイルで資源循環型農業を実現

【受賞者コメント】
私どもGNグループでは、年間44万㌔もの使用済みエンジンオイルが排出されています。その廃エンジンオイルを濾過し、農業用燃油に転換することで、環境面に配慮した資源循環型農業が実現できます。私どもはこの取り組みを進めることによりハウス園芸によるいちご栽培と農家の方々への安価なエネルギー提供を同時に達成させたいと考えております。
資源循環型農業の推進は、農業界の持続的発展につながると確信しております。

SDGｓ貢献賞

未就学児向けに交通安全啓発絵本を配布

トヨタ自動車／静岡県オールトヨタ販売店グループ

トヨタ自動車と静岡県オールトヨタ販売店グループは、1969年以降、静岡県内の全幼稚園・こども園・保育園に交通安全啓発を目的とする絵本を贈呈し続けている。この活動は、トヨタ自動車が実施しているサポトヨ交通安全活動の一環で、毎年春の交通安全運動に合わせ、親子で交通安全を学び、繰り返し練習してもらうことが狙い。

トヨタ自動車は未就学児向けの交通安全啓発絵本を制作してきた。高度経済成長期で交通事故が増加したのを機に制作を開始した。未就学児の死傷者数は減少したものの、7歳児の事故が多い傾向は変わらないため、未就学児に主眼を置いた絵本を発行することで、子ども本人とその保護者の交通安全啓発に役立てている。

一方で、静岡県オールトヨタ販売店グループは、自動車に係る企業として、静岡県内がより安全で豊かな街となるために、「交通事故死傷者ゼロ」という目標の実現に向け交通安全を呼びかける活動を継続してきた。

55年目となる23年は、静岡県交通安全協会の協力を得て、春の交通安全運動に合わせ、同グループが県内の幼稚園や保育所などに幼児の飛び出し事故防止とひとり歩きに重点を置いた交通安全絵本「おまつりにいこう」を7万9100冊贈呈した。絵本は、次年度に小学生になる年長児を贈呈対象としているが、近年は贈呈先から全園児に配布するために追加で絵本を用意してほしいとの要望を受けることもあるという。

静岡県内のトヨタ系ディーラー5社とトヨタレンタリース店2社、トヨタモビリティパーツ静岡支社、トヨタL&F静岡の9社で構成する同グループは、引き続き県内の交通安全啓発に注力する。

親子で学んで事故死傷者ゼロ実現へ

【受賞者コメント】
▼トヨタ自動車＝50年以上にわたり、内閣府、全日本交通安全協会、中部日本自動車学校、全国のトヨタ販売店と一緒に絵本の制作と配布活動を実施して参りました。交通安全絵本の活動を評価いただき光栄に存じます。未就学児を対象に配布しており、累計冊数は約1億5千万部を超えました。「交通事故死傷者ゼロ」を目指し、受賞を機に、より一層交通安全活動に邁進して参りたいと思います。この度はありがとうございました。
▼静岡県オールトヨタ販売店グループ＝この度は、素晴らしい賞を賜り、大変光栄に存じます。
本活動は静岡県オールトヨタグループが、自動車に関わる企業として、静岡県がより安全で豊かな街になるお手伝いをしたいという想いのもと、交通安全協会様、県内の幼稚園様などにご協力をいただきながら、トヨタ自動車と共に55年間継続して参りました。
今後も絵本を通して一人でも多くの子供たちが正しい交通安全知識を学ぶことのお役に立てるよう末長く取り組んで参ります。

SDGｓ貢献賞

トヨタハートフルプラザ横浜の福祉車両・車いす体験授業

ウエインズトヨタ神奈川

ウエインズトヨタ神奈川（宮原漢二社長、横浜市中区）は、同社が運営するトヨタハートフルプラザ横浜が中心となって、小学生向けの福祉車両・車いす体験授業を積極的に実施している。学校の先生では教えきれない専門性の高い授業を行うことで、児童の深い学びにつなげている。2011年以降、横浜市立小学校高学年を対象に出前授業を行い、22年度までに169校、1万4970人の児童が授業を受けた。23年度からは川崎市立小学校も対象に加えた。

福祉車両体験では、トヨタ自動車の福祉車両を仕様別に4台用意し、仕組みや特徴の説明に加え、高齢者や障がい者に必要とされるさまざまな装置の動作を見学、体験することで福祉車両への理解を深めてもらうことを目指している。

車いす体験授業では、自分で操作する方法や目線の高さなどの理解を深める「自走体験」に加え、車いすの介助方法や被介助者の気持ちへの理解を深める「介助体験」を実施している。

同社が実施する授業のプログラムでは、代表者に限らず児童全員が実体験することで得られる「気付き」を重視する。授業を受けた後、高齢者や障がい者、健常者がともに生きていくために「今後自分たちに何ができるのか」などについて考えられるような内容とし、学校には必ず振り返り授業の実施を勧めている。

小学生向けに福祉や介護の実体験

同社のこの取り組みの結果、小学校や社会福祉協議会からの授業依頼が増え、地域とのつながりが強くなった。また授業を受けた児童が福祉車両に興味を持ち、店舗に家族そろって来場する例も生まれている。

【受賞者コメント】
この度はSDGｓ貢献賞に選定いただき誠にありがとうございます。弊社の地域貢献活動の1つである福祉体験授業を通じて、子ども達に社会福祉についての学びの場を提供できることをスタッフともども大変誇りに思っております。これからも社内スローガンである「新しいうれしい！をつくる」の実現に向け、地域課題の解決に向けて皆さまと一緒に取り組み、ともに成長していきたいと思っております。

自動車ユーザー連携賞

地元法人の従業員通勤車両を出張安全点検

トヨタカローラ香川

トヨタカローラ香川（向井良太郎社長、香川県高松市）は、交通安全対策の一環で、地元法人の福利厚生制度を活用した従業員通勤車両の出張安全点検の取り組みに2022年10月以降注力している。香川県の交通事故率が全国的に高水準で推移する現状を受け、自動車の定期点検の啓発の徹底で「正しい状態で走る車が一番多い県」にすることをコンセプトに地域交通に貢献するのが狙いだ。

同社はアンケートを通じて、「点検自体はした方が良いと思っている」人が80％いる一方で、「お金がかかる」「面倒くさい」「時間がない」などの理由で点検しないユーザーの現状を把握した。このユーザー意識の乖離解消に向け「販売店に入庫するのが面倒で時間がないなら、出張でわれわれが行こう」と発想を転換し、「スマートメンテ」という新たなサービスを立ち上げた。点検効率を高めるため、まとまった点検台数をこなせる法人の従業員車両を対象とした。

スマートメンテの特徴は、まず法人契約で従業員の福利厚生メニューに「点検」を入れてもらう。これによって、この法人の従業員は自身がオフィスでの業務時間中に、車両を置いておくだけで販売店エンジニアによる日常点検15項目を受けられる。点検結果は全てLINEでデータ化して報告されるほか、点検費用は法人負担となるため、基本的に従業員負担は無くなる。

香川を「正しい状態で走る車が一番多い県」に

この取り組みは、必要に応じて部品交換や詳細な点検を推奨するため、積極的な入庫マインドを醸成し、人材確保に向け福利厚生の充実を目指す法人ニーズとも合致する。

導入企業数はまだ少ないが、サービスの認知度を高めていくことで利用者数を増やしていきたい考えだ。

【受賞者コメント】
この度は、自動車ユーザー連携賞をいただき大変光栄に思っております。県内の交通マナーが悪く交通事故も多いことから、クルマの点検を通じて安全意識を高めたいという想いでこのサービスを始めました。その想いに共感いただき、いち早く「スマートメンテ」を導入頂いた西村ジョイ様に大変感謝申し上げます。より安全で楽しく移動ができるように、クルマにより「幸せが循環するような社会」を目指して活動を進めて参ります。

自動車ユーザー連携賞

旧車や愛車のレストア通じ自動車文化を醸成

奈良トヨタ

奈良トヨタ（菊池政社長、奈良県奈良市）は、旧型車や愛車のレストアを通じて、県内における自動車文化の醸成および自動車整備技術の伝承と人材育成に尽力している。

同社は、2004年に1962年式「コロナ」をレストアしたのを皮切りに、16年以降にレストア事業を本格化した。また自社のサービスエンジニアがレストアした車両の集大成を発信する自動車博物館「まほろばミュージアム」を21年11月に開館し、入場料無料で広く地域住民や自動車愛好家に開放している。同ミュージアムには、車検を経て公道を走行可能なレストア車を常時10台程展示し、62年式「クラウン」や67年式「スープラ」など往年の名車を披露してきた。

また同社におけるレストア作業は、ベテランと若手のエンジニア、板金・塗装スタッフの混成チームで実施しており、若手エンジニアへの技術伝承の場と位置付けている。

レストア事業とミュージアムの運営を継続する中で、これらの取り組みが地域に果たす役割が拡大してきている。自治体との共同イベントにおけるレストアカーパレード走行の実施に加え、多くの自動車ユーザーからのレストアに関する要望に応えて23年4月に一般ユーザー向けレストア事業を開始するなど、同社のレストア技術を通じて多くのユーザーが旧車や愛車を長く楽しめる環境が醸成されつつある。

同社のレストア事業には、若手エンジニアが自ら希望して参加しており、各パーツを分解、修復、再度組み立てるプロセスでベテランエンジニアから多くを学んでいる。この事業への参加を目的に入社する整備士も生まれるなど、自動車整備の魅力発信と人材育成にも寄与している。

整備技術の伝承と人材育成にも尽力

【受賞者コメント】
この度は第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞において、自動車ユーザー連携賞を受賞することができ、弊社社員一同大変嬉しく思います。博物館運営やレストア事業は、地域の皆様と自動車を通じて接点を持たせて頂くことができる大切な事業です。また整備士のモチベーション向上や技術の伝承に寄与しています。今回の受賞を機に今後ますます地域の自動車文化醸成や整備士の育成に貢献して参りたいと考えております。

グッドパートナーシップ事業

（大賞、部門賞受賞事業を除く）

■一般社団法人愛知県自動車会議所　（名古屋市昭和区）
一般社団法人神奈川県自動車会議所　（横浜市都筑区）
「定期的に地域の自動車関係団体が連携して自動車の点検整備・税金・交通事故・保険などあらゆる相談ができる『自動車なんでも相談所』実施の取り組み」

■一般社団法人神奈川県トラック協会　（横浜市港北区）
「県内の小学生から募集した絵をトラックの荷台カバーにペイントするなど『夢を運ぶトラックデザインコンテスト』の取り組み」

■神奈川トヨタ自動車株式会社　（横浜市神奈川区）
「高齢運転者の交通安全をサポートするため運転ヘルスチェックのプログラムを作成し地元警察とも連携し拡大を図る取り組み」

■岐阜トヨペット株式会社　（岐阜県岐南町）
「人と自然と車がいつまでも走り続ける社会を目指し環境配慮型農業の取り組みや食育事業を通じて地域活性化を図る諸活動」

■タケウチビユーテー株式会社　（名古屋市港区）
「水を大量消費する洗車機のメーカーとして水に関する地域貢献となる名古屋城の堀の水質浄化から始め今後拡大を図る取り組み」

■デンソー株式会社　（愛知県刈谷市）
「貴重なイリオモテヤマネコをクルマの脅威から守るためスマートフォンのアプリなどを活用して安全運転行動を高める諸活動」

■トヨタ紡織株式会社　（愛知県刈谷市）
「自社施設を新設した鉱山跡地における自治体・地域と協働・連携した緑地の復元など環境保全に関する諸活動」

■日産自動車株式会社　（横浜市西区）
「東日本大震災・原発被災後さらなる高齢化が進む福島県浪江町におけるデマンド型乗り合いサービスなど公共交通確保の取り組み」

■ネッツトヨタ仙台株式会社　（仙台市宮城野区）
「東日本大震災後に地域の子供達のため防災林植林や伝統的な祭りなどへの体験活動を企画運営する『そらっこくらぶ』の取り組み」

■株式会社花見台自動車　（福島県いわき市）
「通常ダンプトラックより2倍の荷物を積め安全性能も高めた高効率コンパクトトレーラダンプの開発による物流諸課題への対応」

■東日本三菱自動車販売株式会社　（東京都目黒区）
「伊豆・小笠原諸島における自然災害に伴う停電対策として中古軽自動車EVや外部給電器の供給などにより住民を支援する取り組み」

■株式会社ミズタニ　（京都市南区）
「車いすユーザーにレンタル・リースやサブスクを通じて個人用の福祉車両の普及を図る『福祉車両コンシェルジュ』の取り組み」